

魔王

遊戯



まお

ゆう

Adult Only











×月×日 冬越し村に来てから一年程  
が過ぎただろうか……  
勇者の隣にいるのはとても心地良い  
のだがたまに身体が触れ合ってしまうと  
私の身体は……彼を……オスを欲してしまう。  
我ながらはしたないと思う。  
だが勇者にはそんな私は見られたくない。  
だから見せるわけにはいかない。  
そう……『勇者』には……



だがしかしここは大人の対応を……  
「わかっている んちゅっ だはらこっひて  
んっ 私が準備ひてやっているのだ」  
教え子たちのモノを弄りながら私がそう  
説明してやると彼等は決まってニヤつきな  
がらも仕方が無いと応じる。  
しかしそうした態度を取りながらも  
そこからは彼らも動き始めてくれる。








「先生殿、またなのですか？全くしようがない人だ、我々は勉学を教えて頂きたいだけなのですが」  
生意気にも回答える教え子たち、まったくこれだからこいつらは子供なのだ。  
魔界ではこういう場合何も言わずとも上の者を労って身体をねぶってくるものだ。  
大体本来愛しい勇者にして貰いたい所をお前達で我慢しているというのに……





まず後ろから乳房を鷲掴みされ搾乳するかのようになり根本から乳首まで扱われた。扱かれる度に乳首の先は固くなっていき、どんとんと下腹部が切なくなっていく。ショーツが自らの愛液で滲んでいくのを感じながら私は秘部への愛撫を期待してはしたなくも腰が勝手に動いてしまう。





それに気付いてか彼はびしょびしょに濡れたショーツをすらしぬるぬるに潤ったピンクの膣肉をヨツヨツの指で掻き回す。待ちかねた刺激による快楽に私は我慢できず唸るような嬌声をあげる。子弟達はもはや気品とは隔絶された声を出す私をいやらしい目で見ながら責めた。その視線と愛撫で私の秘部はより粘性を増した愛液を滲み出し遂には果ててしまう。






「うほっやっぱ先生の乳房は大きい  
ですねえ。私の長物でも殆ど隠れ  
ちゃいますよ」貴族子弟は失礼な  
がらもわたしのもっちりとした駄肉  
がお気に入りでさうだ。彼のペニス  
は長く柔軟で、私の…その…脂肪多め  
の乳房で挟んでも回の中まで到達する。





さらにその柔軟性を利用して  
喉の奥まで犯しにきてむせる  
ように苦しくなる。  
とはいえこの息苦しさもまた  
慣れと共に快感になっていく。  
まるで膣のように敏感になった  
喉は、長いストロークの末射出  
される精液の海で達してしまふ。





「それにしては先生は本当に  
だらしない身体をしてくれねえ。  
この恥ずかしい程余った肉とい  
ちんぼの様に固くなったクリ  
といい本当に私好みですよ」

次に責めてきたのは商人子弟だった。  
三人の中でも一番私を辱める術に長けて  
いて、とにかく羞恥に染まることを耳元で  
囁きながら身体を弄んでくる。  
彼のペニスは長さや太さこそ並なのだが  
カリが異様に大きくその段差をうまく  
使ってクリトリスを執拗に攻めてくる。  
しかし彼は私がイク寸前になると動きを  
止め、波が収まったことを確認すると  
再び動き出すということを繰り返す。




彼はいつもそうなのだ。  
彼が私に何を言わせたい  
のか、そんなことはわかり  
きっているし思い通りに  
なるのは癪だ。  
しかしそんな動きを繰り返  
返され続けると私の膝は  
ガクガクになり、絶頂を  
求め子宮は彼のペニスを  
離すまいと絡みつく。  
そんな風に身体が意志を  
無視しだした頃に彼は  
私を本当に辱める言葉を  
持ちかけるのだ。

「イキたそうですねぇ先生。  
ふふっ、ならわかってますよね？」  
ビクついた大陰唇を弄りながら彼は  
いつものようにアレを要求してくる。  
「はあ……はあ……また、言わなきゃ  
ん……っ……だめ……なのか？」

朦朧とした意識の中で最後の抵抗を  
試みるも彼は嫌ならばやめるだけだ  
と切り捨てる。もはや私に抗う術は  
なく私は私は尊厳を捨て、いやらしい  
メスへと成り果てるのだ。  
「う……う……おね……が……い……し……ま……す……  
人……に……物……事……を……教……え……る……立……場……で……あ……り……な……が……ら  
子……弟……達……の……立……派……な……ら……ん……ほ……を……欲……し……が……つ……て  
だ……ら……し……な……く……ビ……ク……つ……く……私……の……お……ま……  
お……ま……ん……こ……を…………イ……か……せ……て……  
イ……か……せ……て…………く……だ……さ……い……ら……い」






「はははっ何度見ても先生殿のその格好はそそるでござるな。いいでしょう、では早速某のをぶち込むでござるよ。ただし……こちらに——でござるっ」  
そう言いながら軍人子弟が自身の極太ペニスをあてがった所は私の秘所ではなく彼の大好きなアナルだった。  
「うひ——いいいッッ♡♡」  
軍人子弟の奇をてらった箇所への挿入も私には予測は出来ていた。しかし、そんな心構えも挿入による快感を抑えることができず、私は下品な声で喘ぎ出す。





「はおっ♡おっ♡おおっ♡♡キテるうう♡  
ひきゆうの奥まへちんぽキてりゆう♡♡」  
貴族子弟のペニスに子宮の奥まで犯され、  
私は至上の悦びに震える。  
そして空いた両手で他の二人のペニスを  
しごきながらその形を脳裏に描く――。  
これが…この形が私を貫き悦ばしている  
のだと。





「おほっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」  
最初はどうしても頼み込まれて  
仕方なくもアナル処女を捧げたのだが  
今ではアナルでもここまでの快楽を  
得てしまうようになった。私が下品な  
声をあげる度とんとんと彼のペニスが  
膨張していき私の括約筋は彼の  
ペニスを締め付ける。



「おおおーこれはこれで  
なかなかのなまものじゃあるな」  
「ふふっね結構だぞよ」  
「一度やってみたかったんだあ」



「おふ♥おっ♥おっ♥おふらっっ♥  
にやにこれーにやにこれええ♥  
ひゅこーきもちいいよおおっ♥♥」  
商人子弟の提案で今日初めての試み  
もした。二本のペニスを挿入される  
圧迫感、そして何より敏感な2箇所を  
同時に擦られる刺激は想像以上で  
私は何度も意識がトビそうになった。



「おぐっ♡おっ♡ほおおっ♡♡  
壊れ…りゅらっ  
さんぼん…なんて…ええっ  
…壊れひやうよおっ♡  
うひいひい♡♡でも気持ち…イイ…ッ  
気持ちイイのおおっ♡♡  
イツひやう—っ♡  
また…イツひやうらっ♡♡」











それから何度も何度もイカされ続け  
睾丸が空になるまで射精された。  
真っ白になった頭でも覚えているのは  
遠く離れた勇者にさえも感づかれそう  
なくらい染みこませられた精液の匂い。  
火照りを鎮める為の戯れであった筈  
なのだが、このままこの遊戯を続ければ  
私の肉体は彼らのちんぽに染められて  
しまうかもしれない。



# あとがき

どもです、初めましての方もいつもご覧になって頂いている方もこんにちは七鍵智志と申します。

今回の夏コミはなんと合同誌含めて三冊出させて頂いた(と思う)んですが入稿順一位はこのまおゆう本になっております。

というのもこの作品、まおゆうが放映されていた時期に描き始めていたのですが諸事情で伸び伸びになってしまい遂にはこのコミケでの完成となったのです。ですのでこの本の時系列は読んでわかった方もいらっしやったかと思いますが冬越し村へ来てちょっと経った時期というなんとも最初の方になつとりますw

まおゆう面白かったなあ。

なかなかいない駄肉というヒロインがほんとツポで三りゃあ描くしか無いと思い挑戦しました。駄肉！

駄肉道ぶっちゃけ難しすぎて泣きそうになりましたけどどうでしたでしょうかね？

駄肉っぽさ出できましたかね？満足とまでは行かなくてもイイネツくらいいってればいいなあ(希望)

まおゆう是非三期やって欲しいですね！

魔法使いちゃんとかもっとしっかり見たいでおま(っ！)

メイド姉も可愛くてどうにかしちやいたかったのになんかそういうシーン希望(おはあ、もう早く三次元に行きたい…)

…と中三病三じらせでも仕方ないので今回はこの辺で失礼しますね。

またの機会にお会いしましょう！七鍵智志でした！！



# 奥付

発行人 : 七鍵智志  
発行 : 七つの鍵穴  
発行日 : 2013/08/11  
印刷 : ねこのしっぽ 様

メール : [codemasa7@hotmail.com](mailto:codemasa7@hotmail.com)  
Twitter : [nanakagisatosi](https://twitter.com/nanakagisatosi)

※無断転載・転用はお止め下さい。





presented by  
**NANATSUNOKAGIANA**